

## 中間評価結果（公表様式）

58

大学名	京都大学
研究施設名	生態学研究センター
拠点の名称	生態学・生物多様性科学の先端的共同利用・共同研究拠点
認定期間	平成28年4月1日～平成34年3月31日

### 1. 拠点の目的・概要

#### 【目的・意義・必要性】

我が国における生態学および関連学問分野唯一の拠点として、生態学・生物多様性科学の発展を望む研究者コミュニティの要望に応えるべく、本研究センターに集約された知識・技術・設備をもとに多様な共同研究を推進し、将来を担う研究者を育成することを目的とする。

#### 【取組内容・期待される効果】

生態学・生物多様性科学の課題について、国内外の研究者に向けて共同研究、研究集会、ワークショップを募集・実施する。また、大型研究施設、研究サイト、研究資料の共同利用・研究を推進すると共に、ニュースレター、ホームページ等を通じて、生態学・生物多様性科学の国際的な発展に努める。

### 2. 総合評価

#### （評価区分）

A：拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティへの貢献もあり、今後も、共同利用・共同研究を通じた成果や効果が期待される。

#### （評価コメント）

生態学・生物多様性関連の各種計測器等を広く共同利用に供し、多様な共同利用・共同研究を支援している。また、拠点の規模と比較して共同利用・共同研究による成果論文数は多いことから、拠点として機能しており、今後の進展が期待される。

### 3. 観点毎の評価

①拠点としての適格性
(評価コメント) 安定同位体に係る各種計測器等を広く共同利用に供している。
②拠点としての活動状況
(評価コメント) 共同利用・共同研究の公募等をウェブサイトを通して行っており、採択課題の決定は、学外者が半数以上を占める委員会で公平に審査が実施されている。
③拠点における研究活動の成果
(評価コメント) 共同利用・共同研究による成果論文数は多く、インパクトファクターの高い学術誌に発表されたものもある。一般向けシンポジウムなどによる成果の発信も活発に行われている。
④関連研究分野及び関連研究者コミュニティの発展への貢献
(評価コメント) 日本学術会議のマスタープランにおける大型計画の策定等に関して関連分野の中心となっている。
⑤審査(期末)評価結果のフォローアップ状況
(評価コメント) 女性研究者の採用や運営委員会への参画など、一定の対応が認められる。
【以下、該当する拠点のみ】
⑥期末評価結果のフォローアップとして、各国立大学の強み・特色としての機能強化への貢献
(評価コメント) 研究成果を行政に必要なデータとして提供するなど、地域貢献を行っている。
⑦拠点としての今後の方向性
(評価コメント) 東アジアにおける生物多様性研究の拠点化に向け、国際ネットワークの形成を通じた、更なる国際化を進めており、今後の進展が期待される。